

第2回西区まちづくり懇談会 会議要旨

1 **開催日時** 令和元年（2019年）6月26日 午後6時30分～午後8時

2 **開催場所** 西区役所4階 研修室

3 出席者

(1) 委員（18人中13人出席）

朴座長、谷口副座長、泉委員、岩井委員、梅本委員、浦委員、眞田委員、椿原委員、橋川委員、原田委員、水戸川委員、村上委員、本西委員

(2) 西区役所

区長、副区長、地域起こし推進課長

4 議題

(1) 西区のまちづくりの方向性について

(2) 西区の魅力と活力を高める取組を推進するためのアクションプランの骨格について

5 **公開・非公開の別** 公開

6 **傍聴者** なし

7 会議資料

議事資料1 西区のまちづくりの方向性について（案）

議事資料2 西区の魅力と活力を高める取組を推進するためのアクションプランの骨格（案）

8 議事内容等

(1) 西区のまちづくりの方向性について

議事資料1により、地域起こし推進課長が説明を行った。

一部を修正し、西区まちづくり懇談会での最終案として総合計画審議会へ諮ることとなった。

<発言の要旨>

朴座長

4つのまちづくりの方向性のうち、「地域資源を活用したまちづくり」については西区らしさが出ているが、それ以外の3つについては西区特有のものではなく、他区でも同じだと思うが問題ないか。

区長

まちづくりの方向性で具体的な内容というよりも、総括的な表現となるため、他区と同じ

ような印象になるかもしれないが、アクションプランの取組内容で西区特有の議論をしていただければと思う。

地域起こし推進課長

「地域資源を活用したまちづくり」については、西区特有のことを記述しやすいが、それ以外については、特有のことを記述しにくい内容になっている。

谷口副座長

「安全・安心で美しいまちづくり」の説明文について、「ごみのぼい捨てや落書き」と、他のものとは比べて具体的な記述となっている。景観や美観など少し抽象的な表現にしてはどうか。

区長

「環境や景観に配慮した」という表現はどうか。

朴座長

「ごみのぼい捨てや落書きのない美しいまちづくりを進める」を「環境や景観に配慮した美しいまちづくりを進める」に変更する。

岩井委員

「元気アップをめざしたまちづくり」の「元気アップ」という表現はあまり一般的ではないと思うが、事務局として何か思い入れがあるのか。

区長

平成24年度に、区の魅力と活力向上推進事業が始まってから西区のテーマの一つとして「元気アップをめざしたまちづくり」に取り組んでおり、なぜその表現としたかは不明であるが、広島市では「元気じゃけんひろしま21」という健康づくり計画もあり、それに関連しているのではないか。

本西委員

平成24年よりもっと前に介護保険の関係で、予防に力を入れるという流れになり、区役所の健康長寿課が各地区の社会福祉協議会にウォーキング教室や体操教室を開催するよう指導したのが始まりである。

- (2) 西区の魅力と活力を高める取組を推進するためのアクションプランの骨格について議事資料2により、地域起こし推進課長が説明を行った。

<発言の要旨>

村上委員

横川には大雁木があり、スタンドアップパドルボードなどの川遊びやツリーイングなど水辺を活かしたガワフェスというイベントを2年前から地域で開催している。また、スタンドアップパドルボードで広島を一周するようなイベントの企画も進行中と聞いている。西区は他の区に比べても水辺が一番の武器になると思うので、水辺を活かしたまちづくりを進めていただきたい。広島駅の近くにある「川の駅」を横川にも作ったらよいと思う。

橋川委員

横川だけでなく、マリーナホップの方までエリアを拡大してもらえれば、南観音地域も活性化する。

村上委員

5年後に基町にサッカースタジアムが建設される予定であるが、基町と横川を結ぶ歩行者専用の橋を架けてほしい。昔から市の計画にもあったはずであり、図面も見たことがある。

朴座長

広島に住んで15年目になるが、川が多いというのが最初の印象である。広島の人には川が近くにありすぎて、そのありがたみを忘れていないか。ソウルにはハンガンという川が流れていて、市民の憩いの場になっている。夏には映画祭や花火大会の会場となっており、休日には臨時のカフェが出店するなど日常生活の中で川が活用されている。広島ももう少し川を活用することができると思うし、それによって人が集まるようになると思う。

水戸川委員

横川では川を利用した地域間の交流として、安佐北の可部から横川の大雁木まで船で嫁入りするというイベントを行ったこともある。

梅本委員

議事資料2の3ページの「出会いと交流の推進」に平和大通り青空ギャラリーの開催だけでなく、区民まつりも記載したほうがよい。

原田委員

己斐に住んでいるが、己斐だけでなく、西区でこれといった郷土料理や食べ物が思い付かない。何か食べ物に関する取組も必要なのではないか。

また、担い手という意味で、市役所の職員が自分の住む地域で貢献するということを考えてほしい。

村上委員

今年横川カンパイ王国！のイベントで、東広島の10の酒蔵とタイアップして、試飲をしてもらった。広島は日本三大産地の一つで有名である。西区内の酒蔵と連携した取組もよいと思う。

朴座長

食べ物に関する取組はよいのではないかと。人が一番関心を示すものであるし、話題にもなりやすい。西区の何かを作ったらどうか。委員の中にオタフクホールディングス株式会社の方もいるが、西区内に酒蔵もあるということで、西区内の食べ物に関わる企業等を集めて新たに何かを生み出すというのもよいかもしれない。

浦委員

ガワフェスの取組は素晴らしいと思うが、そういう情報を知らない。議事資料2の3ページの新たな取組で情報発信方法の多様化とあるが、これを具体的にどうするかが大事である。インバウンドにおいてはデジタルによる情報発信が必須であるが、例えば、人が集まるところに西区のアンテナショップなどを置いて、そこを通れば西区の情報が勝手に入るようにするなど、デジタルをうまく取り入れることが必要である。食べ物の取組であれば、西区民が投票して西区の名物料理を作りましょうというのもデジタルであれば可能である。アナログとデジタルのバランスをうまくとらないと良いものが埋もれてしまう。ホームページなどはほとんどの人は見に来ないので、プッシュ型で発信しないと伝わらない。

村上委員

横川でイベントをする際にチラシを作るが、一番なくなるのがフレスタの店頭である。多くの人が利用するJRの駅の近くにスタンドを置いて出版物を配布したらよいのではないかと。区役所に置いて人も来ない。また、JRは最近地域に協力的であり、駅の構内に無料でポスターを貼らせてくれる。区役所にも協力してくれるはずである。

谷口副座長

西区には留学生を含めて外国人が多く住んでいるし、観光でも多く来ている。外国人に向けては、易しい、シンプルな日本語を使うということを心掛けて情報発信をする必要がある。東日本大震災以降、災害情報でシンプルな日本語が使われるようになってきている。外国人だけでなく、様々な年代の人に対しても伝わりやすく、そういう視点も必要である。

朴座長

修道大学にも留学生がいるが、普段何気なく使っているような日本語でも留学生には相当レベルが高く、伝わらないものが多い。留学生に確認したところ、提出書類の中にもそのような日本語が非常に多くあることが分かり、易しい日本語への置き換えを進めているところである。易しい日本語を使うことは非常に重要なことである。

橋川委員

「安全・安心で美しいまちづくり」は「安全・安心なまちづくり」と「美しいまちづくり」に分け、5つの方向性とするのはどうか。

区長

方向性については先ほどの議事資料1の議論を踏まえて4つとし、アクションプランを策定する中で十分に議論していただき、内容を充実したい。

橋川委員

先ほど食べ物に関する取組の話があった。岩井委員はオタフクホールディングス株式会社に勤務されているが、本日の会議の内容を会社へ報告などしてもらえるのか。

岩井委員

会社で協力できることがあるかもしれないのでもちろん報告する。

浦委員

まちづくりの方向性は4つあるが、西区としてまず何に重点を置くのかというのを具体的に示したキャッチフレーズのようなものが必要なのではないか。

区長

現在使用しているキャッチフレーズは長いので、短い言葉で端的に表現したものがあればよいかもしれない。色々な案をいただいて決めていきたい。

谷口副座長

本日は、水辺を活かしたまちづくりの議論があったが、水は洪水や津波など災害にも関係しており、災害の大きな部分を水害が占めている。防災の取組においても水はキーワードであり、楽しむことと防災と、水とうまく付き合うという視点が必要である。

原田委員

議事資料2の1ページの西区の現状と課題で「マンション居住世帯の増加などにより、町内会・自治会への加入率が低下し」とあるが、これは事実なのか。

橋川委員

事実である。マンションが建設される際に建設業者へ入居者に対して町内会への加入の呼びかけをお願いするが、実際に入居者が加入することはほとんどない。

村上委員

マンション居住世帯が増加しているということは人口が増えているのか。

副区長

マンションは増えているが、単身者向けのワンルームマンションが増えており、人口が増えているわけではない。単身世帯は平日の日中は不在で、接触が難しく、町内会の加入率が低い。

村上委員

「マンション居住世帯の増加」というより、「単身世帯の増加」の方がよいかもしれない。

水戸川委員

町内会のまつりなどで子どもが法被を着て楽しそうにしている様子を見ると、自分の子どもも仲間に入れてほしいと自ら町内会に加入する人もいる。

村上委員

ファミリーは割と加入してもらえるが、単身者は接触も難しく、加入には至らない。

地域起こし推進課長

「単身世帯の増加」に表現を改めたい。